

## 大規模災害に備えて、市民の命の水を供給する地下水と 生田浄水場を存続させることを求める請願

東日本大震災をうけて、自分たちの水道水はどこから来ているのか、地震があってもすぐ復旧するのかということが大きな関心になっています。川崎市の2006年策定「水道事業の再構築計画」では将来、140万人の市民の飲み水の約7割を56Kmも離れた小田原市酒匂川の神奈川県内広域水道企業団飯泉取水堰いひずみしゅすいげきからの水にたより、2015年度内には市内唯一の自己水源である多摩区の地下水の取水を縮小させ、生田浄水場を廃止するとしています。

飯泉からの導水管は直径3mもありますが、巨大地震が起きる可能性が高い活断層かんなわ こうず（神縄・国府津－松田断層）を横断していて、地震時最大3mの地盤変位により破損する危険性が指摘されています。また、海岸近くのため津波も考えられ、飯泉取水堰が停電になれば送水が止まります。今回実際、東日本大震災後に小田原市の断層付近において企業団導水管に亀裂が入り、20日間も川崎に水が来なくなる事態が起きました。

一方、生田浄水場は、多摩区内のさく井さくい（井戸）のすぐそばにあり、1日最大15万トンの水をくみあげ、飲み水にできます。現在、市では災害時備蓄水量を一人1日3リットルとしています。川崎市内の水道管はすべてつながっていますので、さく井さくいから蛇口じやくちまですべての施設で耐震化すれば震災時でも市民全体に水道で一人100リットルも供給できるのです。しかし、平成22年再構築計画案によると、数か所の井戸で1日100トン程度くみあげる小さいポンプにつけかえる予定になっていて、市民全体に水を供給するという観点がまったくありません。生田浄水場とさく井の耐震改修をおこなって、日常的に使えるようにしておくべきです。

非常時には県広域水道は融通しあいますから、川崎市が自己水源を維持するか否かは、県全体に影響を及ぼしかねません。川崎の水を守ることは、神奈川県民全体の水を守ることに繋がります。

昨年10月の貴議会環境委員会で、「命の水を守るために、生田浄水場の廃止の再検討を求めることに関する請願」が審議され、不採択になりましたが、この新たな事態のもとで、生田浄水場と市内の自己水源を安全に維持することの重要性がいつそう増しており、新しい議会で、川崎市民全体の命を守る課題としてご審議いただきますよう、連署をもって請願いたします。

### 【請願項目】

「川崎市水道事業の再構築計画」を見直し、生田浄水場と多摩区のさく井をすべて残すとともに、直ちに生田浄水場の耐震改修をおこなうこと。配管、給水管等の耐震補強を抜本的に進めること。

※署名用紙はこのまま市議会に提出し、ほかに使いません

氏 名	住 所